

秋号 くがはら

vol.136 ・ since 1990



発行：地域力推進久が原地区委員会
編集：地域情報紙「くがはら」編集委員会
事務局：大田区久が原特別出張所
〒146-0085 大田区久が原4-12-10
TEL(3752)4271 FAX(3752)4514

久が原地区管内

<人口>	<世帯数>
男 14,107人	13,996世帯
女 14,986人	
計 29,093人	令和6年9月1日現在

久ヶ原スポーツクラブと“防災協定”締結

令和6年3月7日

～久が原地区自治会連合会～



プールの水が災害時の水問題に一役！

44年間この地に根付いてきた久ヶ原スポーツクラブは、地域貢献として、地域防災体制の構築に協力することになりました。



久ヶ原スポーツクラブ取締役と5自治会長

久が原地区自治会連合LINEに登録すると防災情報や大田区の防災サイトにもつながります！

協定の内容

- ◇ 災害発生時にプールの水を生活用水等として地域に提供するほか、防災備蓄物品を提供する。
- ◇ 一時待機場所として、施設敷地の一部について提供する。
- ◇ 久が原地区地域防災協議会に積極的に参加してもらい地区連合会と連携して地区内の防災力強化を図る。
- ◇ 企業が協定に基づく提供をした場合や防災に関する取り組みをした場合に地区連合会は、活動の内容を地域住民に積極的に情報発信するものとする。

久ヶ原スポーツクラブのプールの水量は約40万ℓで、生活用水等として一人一日あたり約20ℓ必要とした場合、5千人が4日程度補えます。プールの水の運搬、配給方法の具体策はこれから協議されます。

☆ 災害時あなたの水対策は大丈夫ですか？

- 飲料水として一人一日1ℓ
調理に必要な水を含めると一人一日3ℓ
- ペットを飼育されている方は、ペット用飲料水も必要です。

☆ 水道水を保存する際には

- 清潔で蓋のできる容器(ポリタンク・ペットボトル・水筒等)に、できるだけ空気に触れないよう口元いっぱいに入れる。
- 保存した水道水を飲む時は、雑菌が入らないように直接口をつけずに、コップ等に注いで飲む。
- 保存期間の目安は、直射日光を避けて涼しい場合なら3日程度、冷蔵庫なら7日程度です。
- 保存期間が過ぎたら、掃除や洗濯に使う。

(大竹 恵美子)

給食費が無償化になりました！

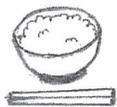
大田区では、区立小中学校の保護者の経済的負担を軽減、子育て支援を推進するため、**区立小中学校の学校給食費の無償化を令和5年度に引き続き、令和6年度も実施しています。**今年度から東京都は都内の区市町村が保護者に支援する経費の2分の1を補助することが決まりました。

大田区では、学校給食の実施に必要な経費のうち、施設や設備、給食運営に関する経費は公費負担、及び給食の質の確保を図る食料料費の補助をしています。それ以外の食料料費を保護者が負担していました。

それまでの保護者負担の月額額は、
小学校 低学年 4,100円、中学年 4,500円、
高学年 4,950円、中学校 5,350円

この無償化は子育て家庭にとってありがたいです。東京都では23区が無償化、多摩地区ではまだのところがあります。

国の公立小中学校学校給食の無償化は547自治体、全体の約3割が実施しているそうです。



(大竹 恵美子)



シニアのカフェなど、活動の
中高年生のための放課後フ
リースペース、まいすべす
を新設、その他子ども食堂
(予約制でテイクアウト)や

「未来を担うこともたちが、この地で育つてよ
かったと思えるような育ちあい、支えあいを
お手伝いします」といって、あち村の思いとそ
の活動を、垣間見た気がしました。
こあら村は、心ある方々からの寄付やスタッ
フの方々のチカラで運営しています。
応援されたい方、ご興味のある方は、一度お声
かけしてみたいかがでしょうか。

(星合典子)

こあら村

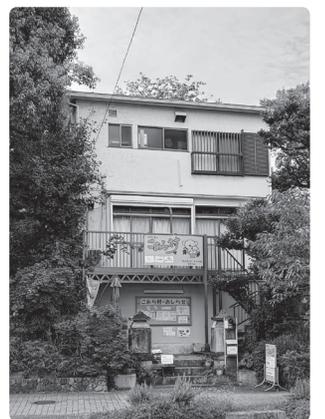
「地域」の「子育て」の「こあら」

千鳥町駅から六郷用水沿いに歩いて、いこ
い公園となりにある、NPO法人こあら村とい
う建物がいとも気になっていました。大田区
HPで紹介されていたので、思い切ってお連絡
したところ、訪問を快諾していただきました。
当日は理事長の嶋田朝子さんと、若手ス
タッフの小林宙さんにお話を聞きました。
因みに、大学生の宙さんは、こあら村で育ち、
中学生の頃から伝統野菜の栽培に取り組み、
学生ながら起業もしているとのことエピソードも
紹介されました。

こあら村は、前理事の高山久子さんが自宅
2階を地域の福祉に活用できないかとの思い
から始まり、高山さんはお亡くなりになりま
したが、有志の方々がその遺志を継ぎ、20年間
この地で子育て中の家族を応援してきました。
その間、いろいろなことがあり、特に「コロナ
禍では活動中止を余儀なくされました。しか
しそれを良い機会と捉えて、活動内容を見直
し、赤ちゃんひろばに、小

幅を広げています。世の中の変化に、こあら村
の活動も変わっていく必要があると、力強く
話していました。

「未来を担うこともたちが、この地で育つてよ
かったと思えるような育ちあい、支えあいを
お手伝いします」といって、あち村の思いとそ
の活動を、垣間見た気がしました。
こあら村は、心ある方々からの寄付やスタッ
フの方々のチカラで運営しています。
応援されたい方、ご興味のある方は、一度お声
かけしてみたいかがでしょうか。



大田区久が原 6-26-4
Tel & Fax 03-6313-5158
Mail npo.koala@gmail.com

秋の芸術特集

二刀流の芸術家 **柳平** やなぎだいら **素子** もとこ さん 昭和4(1929)年生

◇ バイオリン教室主宰

◇ 水墨画 (雅号: 素雪) そせつ



17歳の頃

『二刀流』といえば、近年では大リーグで大活躍の大谷翔平選手の代名詞のようですが、ここ久が原にも長きにわたり水墨画とバイオリンの二刀流芸術家として現役で活躍する方がおられます。ご本人の回顧録やインタビューをもとに、ドラマチックでユニークな生きかたをご紹介します。

バイオリンのこと

油絵画家だった父、河合敏雄(※1)の師のひとり、熊谷守一先生のお宅へ幼い頃はよく連れて行ってもらいました。先生のお宅にバイオリンがあって先生と父とが代わる代わるギーコギーコと弾いては先生の娘さんたちとも楽しみ、熊谷先生からの「子どもには何か芸術をさせたら良いよ」のお声かけもあって父は私にバイオリンを習わせました。私は武蔵野音楽大学バイオリン科に進み、恩師である篠崎弘嗣(※2)先生に出会いました。戦後の混乱の中の卒業でしたが、進駐軍のパーティーなどで生演奏が重宝された時代、駆け出しの音楽家にも仕事がたくさんあり、そんなアルバイトのなかには日本劇場(通称日劇)のショーもありました。芸能人が週ごと入れ替わり出演するので、有名な方も楽屋で挨拶するようになり、



エノケンさんから「楽屋に来てバイオリンの持ち方を教えてくださいよ」、越路吹雪さんから「新しい譜面もらったからメロディを弾いてくださらない」などと頼まれたり、美空ひばりさんのお誕生日には、楽屋中に配り切れないほどのケーキの御相伴にあずかりました。服部良一さんの指揮で、笠置シズ子さんの『東京ブギウギ』『買い物ブギー』なども伴奏しました。色々な芸能人と会える楽しい日々でしたが、ある時、楽屋に来られた篠崎先生ご夫妻から「いつまでもこういう仕事をしてはいけない、家庭に入ってバイオリンを教えなさい」と諭されました。戦時中抑圧されていた習い事が解放され、ズキバイオリン教室の武道館での1000人の大合奏が話題にもなっていましたし、篠崎先生のバイオリン早教育研究会も多い時には800人の会員を超えていたので、私は会計を任せられ大変忙しかったです。

※1 河合敏雄(墨雪)……(1901-1989)日本画家 太平洋画会審査員、二科会員、帝国美術院(現・日展)入選数回。カリフォルニア大学、東ロスアンゼルス大学教授など歴任。帰国後、瑞宝章受章(日米親善により)。清明学園や雪谷高校の校章デザインにかかわる。
 ※2 篠崎弘嗣……(1902-1966)バイオリニスト バイオリンの早期教育の重要性を唱え、日本初のバイオリン早教育研究会を創設。『篠崎バイオリン教本』など出版多数。

水墨画のこと

篠崎先生は64歳の若さで亡くなられ、お嬢様の篠崎功子先生が後を継がれていました。会計の仕事の後に突然、奥様が「あなた、お父様がお元気なうちに絵を習っておきなさい。そして復習がてら私に教えてちょうだい」とおっしゃるのです。父が帝展や二科展などの期日のために苦しうに描いたり消したりしているのを見ていた子ども時代は「絵描きにだけはなりたくないものだ」と思っていました。が、「今習っておかなかったらきっと後悔するわよ、血筋というものがあるのだからあなたが『教えてください』と言えばお父様はきっと喜んで教えてください」と奥様に背中を押され、父のもとへ習いに通うことに。その後、父が顧問を務めた「現代水墨画協会」へ出品し佳作賞をいただくと、奥様は「ほら、習っておいて良かったでしょ」と喜んでくださいました。その後徐々に上の賞がいただけるようになって、審査員や常任理事に。現在も名誉会員として国際美術大賞展に出品を続けています。都美術館や国立新美術館をはじめ多くの展覧会にも長く出品を続けるうち、いつの間にか父の享年を過ぎました。以前は父の故郷である宮城県加美町(旧中新田町)には曲がり屋を移築した「墨雪美術館」があったのですが、東日本大震災で壊れたため、中新田交流センターに「河合敏雄記念 墨雪墨絵展示室」が作られ、父の作品とともに私の作品も多数所蔵されて多くのお客様にご覧いただいています。



戦争時代、久が原にて(防空壕になった古墳)

6丁目の我が家の庭先に、祖父が防空壕を掘りました。1メートル四方ほど掘り進んだ頃「なんだか大きな穴があるぞ」と叫ぶので覗きに行くと、掘った穴の先に深さの知れない暗闇。古墳だったのです。広さ三畳ほどで大人が手を上げて届かないほどの高さがありました。底には砂利が敷き詰められ、その上に三体の人骨が並び、大部分は粉になっていましたが大人の頭蓋骨は形がまだわかりました。のちにわかったことですが、奈良時代前後の有力者の家族墓だったようです。この即席古墳防空壕に生活用品や大切な物運び込み、空襲で家は焼けてしまいましたが、運んだ物は無事に残りました。ご先祖様が守ってくれたのでしょうか。出てきた骨は、馬込の萬福寺にある我が家のお墓に祀ってあります。



人間万事塞翁が馬

禍福は糾える縄の如し

戦後、もともと油絵画家だった父は、墨絵も小林源太郎先生に師事していました。絵の勉強のためにフランス留学を考えていた矢先、詐欺にあって渡航が叶わなくなったのですが、呆然として打ちひしがれる父に、たまたま「アメリカ行きの船がある」と乗せてくださった恩人がいたのです。フランスでなくアメリカで何をすれば良いか考えた父は「学ぶのではなく、逆に日本文化を伝えよう」「日本を伝えるなら油絵ではなく水墨画だ」と。そうして滞米18年、河合美術学校を設立したり、大学で水墨画を教えながら国際親善に尽力し帰国しました。その後にできた父の活動の空白期間に、私は絵の手ほどきを受けることができたのです。

翻って、バイオリン教室は最も多い時には50人もの生徒さんで溢れ、経済的な助けにもなりました。現在でも有難いことにまだ弾けるので、少なくともはなりましたが生徒さんに教えたり、近所の楽器奏者の方と合奏して楽しんでいます。二兎を追って大きな恵みを受けたと感謝していますし、倍も苦労したことは忘れてしまいました。(岡田 久美子)

イベント情報

- ◆ 久が原南自治会クラブまつり
【開催日】11月24日(日) 9時～
【場所】久が原南台公園
 - ◆ ヒルズ久が原自治会イルミネーション点灯式&歳末たすけあい運動
【開催日】11月24日(日) 17時～
【場所】ヒルズ久が原管理棟
 - ◆ ヒルズ久が原自治会クリーン大作戦
【開催日】12月1日(日) 9時～
【場所】ヒルズ久が原
 - ◆ 久が原東自治会年末夜警
【開催日】12月25日(水)～30日(月)
【場所】久が原東自治会管内
 - ◆ 久が原西自治会市民消防隊年末警備
【開催日】12月26日(木)～30日(月)
【場所】久が原西自治会管内
 - ◆ ヒルズ久が原自治会年末警備
【開催日】12月28日(土)～31日(火)
【場所】ヒルズ久が原管内
 - ◆ 久が原南自治会年末警備
【開催日】12月28日(土)～30日(月)
【場所】久が原南自治会管内
 - ◆ 道々橋自治会年末警備
【開催日】12月28日(土)～31日(火)
【場所】道々橋自治会管内
 - ◆ 久が原東部八幡神社除夜祭
【開催日】12月31日(火)
【場所】久が原東部八幡神社
 - ◆ 久が原西部八幡神社除夜祭
【開催日】12月31日(火)
【場所】久が原西部八幡神社
 - ◆ 道々橋八幡神社除夜祭
【開催日】12月31日(火)
【場所】道々橋八幡神社
- 《問い合わせ先》久が原特別出張所
03-3752-4271

【編集後記】

毎月の防犯パトロールと年末夜警、各自治会の掲示板に参加者募集があります。地域の安全が昔から守られているのは自治会があり、協力して下さる自治会員の皆様の意識が高いからです。本当にありがとうございます。大竹 恵美子

第35回 ふれあい久が原大運動会 10月20日(日) 9時半 会場・松仙小学校